

令和2年度（2020年度）学校評価

学校園名	宝塚市立 安倉 幼稚園	校園長名	吉田 ゆかり
------	-------------	------	--------

1 学校教育目標

【教育目標】 心身ともにたくましい幼児の育成
 【研究主題】 「やる気・本気・根気 あきらめない心を培う保育実践」
 ～幼児の育ちと学びをつなげる幼小接続をめざして～

2 重点目標

- 豊かな体験が広がる保育の充実をめざす
- 家庭・地域と共に育ち合う幼稚園づくりをめざす
- 心豊かな教師集団づくりを進め、教師の資質向上をめざす

3 学校自己評価結果（A：優れている B：良い C：おおむね良好 D：要改善）

領域	評価の観点及び評価項目	達成状況	学校の取組状況・改善の方策
園運営	開かれた幼稚園づくり	○ 家庭や地域への情報発信を行う。	○ 今年度は参観やけやきタイム等の機会をもちにくく、例年に比べて子どもたちの様子を伝えにくかった。そのため、写真や連絡帳クラスだよりで子どもたちの様子を伝えるようにした。 ○ ホームページの更新があまりできなかったため、活用をしていく。
		○ 幼児の体験が豊かに広がるように地域のよさを取り入れた保育を進める。	○ 地域の方に、安倉音頭や太鼓を教えていただくなど、交流の機会はもてなかったが、子どもたちには地域の伝統として、保育の中に取り入れ伝えていくことができた。
	子育て支援の推進	○ 幼児の成長を中心に据え、親と子の育ちの場としての役割を果たす。	○ 参観などで子どもの姿を見ていただく機会は少なかったが、運動的な遊びや楽器遊び、表現遊びなど子どもたちの成長での節目となる機会には、密を避けながら見てもらえるように努めた。また、日々必要に応じて、個々に子どもの姿を伝えて、家庭と共有できるように努めた。
		○ 未就園児親子への支援を行うための保育の場を提供する。	○ 未就園児保育について回数は少なかったが、行うことができた。未就園児の遊びの場の提供やつながりを持つきっかけ作りが必要であるので、感染防止対策を講じながら、継続して行っていく。
	危機管理 体制の整備	○ 危機管理マニュアルにそった定期的な訓練、安全対策を行う。	○ 避難訓練は、例年より回数は少なかったが、子どもたちに伝えたいポイントを明確にしながら行うことができた。 ○ 通園については、交通ルールやマナーなど手紙や降園指導で伝えていくようにした。安全への意識が継続できるよう、啓発を続けていく必要がある。
教職員の資質向上	○ 教師間で、幼児の育ちについて話し合う機会をもつと共に、研修での学びを通して幼児理解に努める。	B	○ 日々幼児の姿を通して、個や学級の実態に合った保育が進められるよう考え合うことができた。
	○ 一人一人が課題を明らかにし、自己の課題を意識しながら保育に取り組み行事や学期ごとに自己点検に努める。	B	○ 教師それぞれの課題を意識しながら、研究会やそこで学んだことを保育に活かせるように努めた。 ○ 指導計画に基づきながら保育の振り返りを行い、次の保育への課題を明確にして取り組むことができた。

4 評価項目ごとの

学校関係者評価

- 今年度は地域との交流が難しく思ったと思うが、できる形を見つけて地域に出かけ、地域の行事への参加を促すなど継続して取り組んでほしい。
- 今の時代はやはりホームページの利用が必要である。在園児保護者にとどまらず未就園児保護者へのお知らせなど広く活用して幼稚園を知ってもらえるようにしてほしい。
- 3歳児をどのように過ごすかが幼稚園選定のポイントとなる。今年度は制限があったが、園庭開放などで、未就園児の保護者同士が知り合えるきっかけをつくとよい。
- 未就園児教室の開催時期など予定などが早めに分かれば地域の広報誌に掲載することもできるので活用するとよい。
- 避難訓練は継続して行ってほしい。
- 保護者向けの安全意識の啓発は、年度当初だけでなく、学期ごとに手紙を出すなどすることで、安全への意識が継続するのではないかな。
- 先生たちの研修は必要なことである。
預かり保育との兼ね合いもあると思うが、早めに予定を知らせるなどして、保護者に協力してもらい研究・研修をするのが子どもたちに返っていくことである。

教育課程	幼児期にふさわしい生活の展開	○ 幼児の興味や関心に基づき、主体的に根気強く取り組めるような保育内容を工夫する。	B	○ 密を避けるために、子ども同士のかかわりの面で少し制限される面があったが、幼児の興味に沿った遊びや、友達と考え合う経験ができるように環境をつくっていった。	○ 安倉幼稚園の園庭の広さを生かしてのあくらっこタイムはぜひ続けて行ってほしい。 毎日少しずつでも続けてすることに意味があり、多様な動きを取り入れた活動を行い、子どもたちの体幹を鍛えてほしい。
	基本的な生活習慣及び 道徳性の芽生えの育成	○ 「あくらっこタイム」を通して幼児が自分なりの目当てを達成できる取り組みを行う。	B	○ あくらっこタイムは継続して行い、がんばり表を作成して、スモールステップで達成感を味わいながら取り組めるようにした。子どもたちは、できなかったことができるようになることに喜びを感じながら取り組むことができた。	○ あくらっこフェスタでは手洗いのダンスを取り入れていて、必要な生活習慣を流行を取り入れながらしたこと、保護者への啓発にもなったのではないかと。 ○ 日常生活の中で、子どもたちに手洗い、うがい、消毒などの習慣はよく身につけていた。 ○ 優しい言葉、きれいな言葉への意識が自然と身につくように、幼児期から意識してほしい。それには大人（保護者も含めて）の言葉の掛け方が重要である。
		○ 挨拶や身辺整理、手洗い等をはじめ、園生活全般を通して、新しい生活様式を踏まえた基本的な生活習慣を育成する。	A	○ 新しい生活様式など市のマニュアルに沿って、手洗い、うがい、消毒や衛生面のマナーなど繰り返し丁寧に伝えたり、保健指導で教えたりした。子どもたちもなぜするのか意味を分かって取り組んでおり、進んで行えるようになってきている。	
校種間連携	○ 葛藤やトラブルを乗り越える体験ができるような場や機会を逃さず、あきらめない心の育成に努める。	B	○ 子ども同士のトラブルなどは、なるべくその場で時間を取り互いの思いを伝え合えるようにした。また、学級で考え合う場をもつなど、一人一人の思いを出せるように支えた。今後も機会をとらえて、自分に置き換えて考えられるよう取り組みを続ける。	○ 難しい状況があったと思うが、今後も小学校との連携は継続してほしい。小学校とのつながりを少しでももてたのはよかった。	
課題教育	人権教育	○ 保・幼・小・中・養護学校と交流の意義や具体的な進め方について話し合う場をもち、教師間で共通理解した上で、交流を行う。	B	○ 今年度は幼児と児童、生徒の交流の機会をもつことは難しかったが、隣接校の教師とは情報を交換したり、小学校の先生に来ていただいて話をしてもらったりする機会をもつことができた。次年度も状況に応じて出来ることを進める。	○ 幼児が友達との生活の中で、コミュニケーションをどのようにとっていったらよいか学んでいくことが大切である。先生が間に入りながら、望ましいコミュニケーションのあり方を身につけてほしい。
	特別支援教育	○ 幼児一人一人の課題を明確にし、教職員全員で共通理解を図り、指導を工夫する。	B	○ 日々の生活の中で起こった出来事を振り返り、互いの気持ちや自分ならどうするか、どう感じるかなど考えることができた。また、絵本などの教材を利用して、様々な場面について考える機会をもった。次年度も引き続き取り組む。	○ 個々の成長に合ったかかわり方が大切である。 今後も一人一人に合った指導を継続してほしい。
	防災教育	○ 様々な事態を想定した避難訓練等に取り組む機会を通し、教師の防災教育に係る指導力・実践力の向上に努める。	B	○ 個別の指導計画を作成し、職員全体で手立てを共通理解しながら支援できるように努めた。また、学期ごとに子どもの実態と課題の捉え方や支援のあり方について指導を受ける機会をもち、日々の支援に活かせるようにした。 ○ 保護者には園での様子を伝えながら、行事を含めた遊びへの取り組みについて伝え、保護者の願いを受け止めると共に、理解や協力を得られるようにする。	○ 教師の防災意識を高めるという思いで取り組むことが大切である。安全のために必要なことなので今後も取り組んでほしい。

5 学校評価の実施方法についての学校関係者評価

○ 保護者へのアンケートを取りそれをもとに評価をしているので、このやり方でよい。

6 総合的な学校関係者評価

○ 今大事にしていることを継続し、子どもたちにとって大切なことは何かを心にとめながら、今後も安倉幼稚園らしい教育を進めてほしい。